



若き力

オリンピックにおいて、金・銀・銅メダルの数が評価となることは知られている。次の大会を見据えると若い選手の入賞以上を評価する手法がある。次につながる若い力の必要性は病院でも同じです。若い力に期待したい。

院長 小川 洋史

写真：アカヤシオ咲く両神山と奥秩父の山並み 撮影：小川洋史

糖尿病の新しい治療

社会保険中京病院 内分泌代謝科主任部長 田中 博志



けんこう百花66号

新生会
情報誌

#IOSPY

はじめに

糖尿病は、今や国民病ともいわれ、年々その数は増加の一途をたどっています。(図1)

そして糖尿病を放置したり十分なコントロールがなされないと種々の**合併症**を引き起こしてしまいます。

この合併症には、糖尿病に特徴的な合併症(糖尿病の三大合併症とい

います)である網膜症、腎症、神経障害と糖尿病に特徴的ではありませんが、糖尿病患者さんは、そうでない人に比べて3-4倍発症しやすいと言われている心筋梗塞や脳卒中などの動脈硬化に関連する合併症があります。

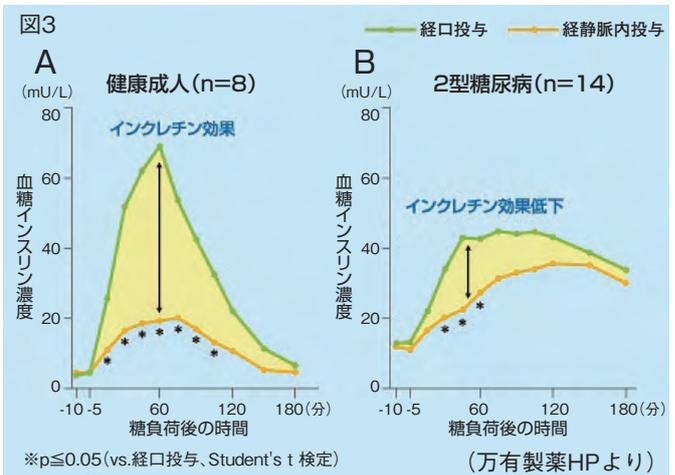
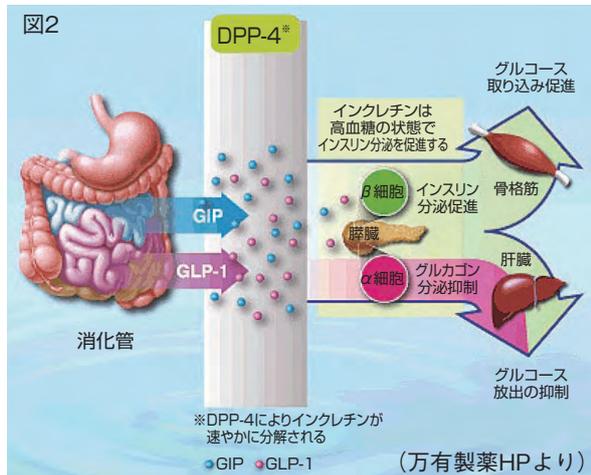
いずれも基本的には血糖が高い状態が続くことが原因ですので、その予防には血糖をきちんと下げる必要があります。特に近年の研究では、動脈硬化関連の合併症を抑えるには、糖尿病の三大合併症を抑えるよりも、より厳格なコントロールが必要だと考えられています。そのためには、食事・運動療法を遵守していく事がどうしても必要ですが、更に不十分であれば薬を追加することになります。



厚生労働省の調査でも2007年には、「糖尿病を強く疑う人」と「糖尿病の可能性が否定できない人」を併せると2210万人と推定されています(図1)

インクレチンについて

インクレチンとは、食物を摂取することにより腸管から分泌されるホルモンの一種であり、膵臓からのインスリン(血糖を下げる働きがあります)分泌を促進し、グルカゴン(血糖を上げる働きがあります)分泌を抑制します(図2)。これは図3Aにあるようにインスリンは、ブドウ糖を静脈内に投与するより、経口的に投与したほうが多く分泌されることから、何か腸管よりインスリン分泌を刺激するものがあるのではないかと、ということで発見されました。ただ残念ながら糖尿病患者さんでは、このインクレチン分泌が減少していることが報告されており、血糖上昇の一因と考えられています(図3B)。そこで、このインクレチンを増加させようとする**新しい薬**が開発されました。



新しい薬: インクレチン関連薬について

このインクレチンは腸管から分泌された後は速やかに(数分以内に)DPP4という酵素で分解されて作用がなくなってしまいます。そこで、**薬として2種類のもの(内服薬と注射薬)**が開発されました。

内服薬

DPP4という酵素の働きを抑えて、インクレチンを分解されにくくしようとする薬
昨年(2009年)12月に発売
内服薬として1日1回で有効



注射薬

DPP4という酵素に分解されないように構造を少し変化させたインクレチン様物質を作る薬
今年(2010年)の春くらいに発売予定
インスリンのような注射薬で1日1回皮下注射

[この2種類の薬の大きな特徴]

いずれもその効果があらわれるのは、「食事により血糖が上昇した時だけ」ということです。つまり「他の薬のように効き過ぎて低血糖になってしまったりすることはなく、1日1回の投与で三度三度の食事の時だけ効いてくれる」という大変都合のよい薬です。

通常の使用量での証明は出来ていませんが、動物実験では、食欲を抑制して体重を減らしたり、ベータ細胞というインスリンを分泌する膵臓の細胞を増やしたりするといった報告がされています。まさに糖尿病患者さんには、願ってもない新薬といえるでしょう。

当然のことながらこの薬だけで全ての糖尿病患者さんの治療が出来るわけでもありません。

この薬を使ったからといって、食事・運動療法をサボっても大丈夫ということではありません。

薬の効果は、大体HbA1c(ヘモグロビン・エーワンシー:血液検査の中で血糖の状態を判定するのに有用)を1-1.5%くらい低下させます。早朝空腹時血糖だと20くらい、食後血糖で50くらいになります。つまり従来からある薬と効果という点では大きな違いはありません。

それでも血糖が下がったのに体重は変わらない(注射薬では、減少した)という報告もありますので、低血糖が起こりにくいと言う事も併せて画期的な新薬であることには違いないと思います。

今後も色々な薬が開発されてきます。当院でも治療中の糖尿病患者さんのために、これらの新薬の進歩に併せた最新の治療を進めていきたいと考えています。

糖尿病看護外来復活!!

糖尿病療養指導士 佐久間恵巳

新生会第一病院では今年の1月から糖尿病看護外来が復活し、糖尿病足病変指導者研修を終了した看護師が「フットケア」を行っています。

糖尿病の合併症である「神経障害」「末梢血管障害」をきたしている状況での、糖尿病足病変は、壊疽や切断に至る場合も少なくありません。生涯「自分の足で歩く」ために、自分の足は自分で守ることが必要です。まずは、自分の足への関心を高めていくことから始めましょう。そのためのお手伝いがきっと出来ると思います。

『自分の足をじっくりと見たことがない方』

『自分の足で気になっていることがある方』

DM外来、受診時に医師にご相談ください。また、医療保険の適応が可能です

火曜日・木曜日・金曜日に開いています。

時間調整は可能です!

— 外来内容 —

- *アキレス腱反射
- *知覚神経の有無を調べる
モノフィラメント
- *深部感覚を調べる音叉

検査

ケア

- *足浴
- *マッサージ
- *爪の手入れ

指導

- *靴・靴下の選び方
- *足の観察
- *生活の注意



接遇講習会を開催しました

テーマ

『患者様と向き合う時の心構え 聞き方・話し方』

開催日:2009年11月17日

新生会第一病院は毎年、職員のコミュニケーション能力向上を目的とした接遇講習会を開催しています。

今年は協和発酵キリン株式会社より講師の先生をお招きして、様々な場面を想定したシュミレーションを通して、相手が自分の言動に対してどのように感じているか学ぶことができました。

接遇講習会で学んだことを活かして、今まで以上に心地よく働ける環境にしていきたいと思えます。

(接遇担当者)

定期的に接遇自己チェックを実施し、全ての職員の質的向上を目指しています。

患者サービス推進委員会

接遇講習会アンケート結果

～接遇研修に参加して感じたこと～

患者様に接する際の適切な質問の仕方、返答の仕方を学ぶことが出来ました。

自分が普段使っている話し言葉が適切であるか確認出来るよい機会となりました。学んだことを実践していきたいと思えます。

健康ネットワークいきいきでは、2010年2月13日(土)に第12回オープンセミナーを開催しました。今回は糖尿病の新薬と、フットケアに関する内容で行いました。質疑応答のコーナーでは多数のご質問があり興味の高さが伺えました。

(参加総数45名)

「糖尿病の新しい治療の話」
社会保険中京病院
医師 田中博志



「フットケア」
新生会第一病院
糖尿病療養指導士 佐久間恵巳

多数のご参加ありがとうございました!

書籍の紹介!!

私達はこのような本を発行しています



新生会第一病院では、前号で紹介した透析ハンドブックの他にも、患者さんや医療者向けの本を発行しています。①、②、③、④は医学書院から発行している糖尿病や在宅透析などのハンドブックシリーズです。⑤は管理栄養士が執筆した具体的でわかりやすい透析食の本です。⑥は新人看護師を育てるために役立つ1冊です。⑦は当院グループ透析部門全体の医師、看護師で執筆した看護師向けの携帯用の本です。写真や挿絵などを使って理解しやすいように工夫してあります。ぜひご覧ください。

書店・当院売店(一部)でお求めいただけます

外来診療科一覧

平成 22 年 4 月 1 日～(予定が変更する場合がございますので、ご了承ください)

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
腎・一般内科	午 前	○	○※1		○	○	○
整形外科・リウマチ科	午 前	○	○※2		○		○
シャント外科	午 前	○	○	○	○	○	
内分泌(甲状腺)糖尿病※3	午 後		○		○	○	

- ※1 総合内科
- ※2 整形外科・リウマチ科の午後の診察あり
- ※3 内分泌(甲状腺)糖尿病に受診した後に、糖尿病栄養外来を行っています

* その他、副甲状腺外来、家庭透析、CAPDの診察も行ってあります
** 当院外来では、予約制を実施しております。(初診の患者様、急変した再診の患者様、又、再診の方でも急に受診日を変更したい場合等は、予約がなくても受付けますので 来院ください)
*** 緊急の場合はいつでも電話をして来院下さい。

新生会第一病院

住所 〒467-8633 名古屋市瑞穂区玉水町1-3-2
電話 (052)832-8411 FAX (052)832-8417
ホームページ <http://www.shinseikai.org>

○診療内容○

腎・一般内科、整形外科・リウマチ科、シャント外科、内分泌(甲状腺)糖尿病、総合内科、副甲状腺外来、家庭透析、CAPD、糖尿病栄養外来
※当院外来では、予約制を実施しております。(初診の患者様、急変した再診の患者様、又、再診の方でも急に受診日を変更したい場合等は、予約がなくても受付けますので来院ください)

